



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二五五号）

大暑 たいしょ 七月二十三日

大湊の造船業

「海の日」の祝日は、海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日として、平成八年に制定。この地方にも古くから海洋国を支えた造船業の町があります。伊勢の大湊おほみなとです。

大湊は、宮川と勢田川せった・五十鈴川の合流点に出来た三角州。『大きな湊』の名のごとく、伊勢神宮の外港として栄えました。また、宮川上流に木造船建造に適した材木が豊富であったため、造船が盛んに。戦国時代、織田信長が本願寺との決戦に向けて九鬼氏に命じた六艘の鉄甲船、豊臣秀吉の朝鮮出兵に建造された「日本丸」と、大湊の造船は歴史の舞台に名を刻んでいます。

そして、その造船技術を買われて、昭和にも大きな出来事がありました。昭和二十九年ビキニ環礁で被爆したマグロはえ縄漁船、第五福竜丸ふくりゅうまるが当時の強力造船所に運び込まれ、旧東京水産大学の実習船「はやぶさ丸」に改造されていたのです。

先日、伊勢でシンポジウムが開催され、当時、改造に関わった船大工たちが約六十年前を振り返りました。昭和三十一年六月の夜、巡視船に引かれて大湊沖についた第五福竜丸は薄明りの中、引き船によって造船所に入りました。テレビのニュースで第五福竜丸の大湊入船を知った地元では、大騒動に。造船所では全員で解体に取りかかり、水洗いをしたといいます。ビニール合羽や防塵メガネ、長靴で防備。「木一枚取るのも怖かったが、日本のリーダーを育てる船になることを祈って作った」。この言葉に海の男としての矜持きんぢがうかがえました。

役目を終えた第五福竜丸は今、東京の夢の島にある展示館で公開。伊勢からは厚生中学校が修学旅行で唯一見学に訪れているとか。造船の町に深く刻まれた船が長い年月を経て浮かび上がったように感じました。

文 千種清美

